

丹後機業の動き

原料高の製品安 改善しない織工賃 再構築の胎動

- 春先はアベノミクスでこれはいけると期待した。しかし円安の進行で生糸価格が一段と高騰、採算がさらに悪化している。9日内閣府が発表した街角景況は、2ヵ月ぶりに改善「緩やかに回復しつつある」との報道にもよ事に聞こえる。儲からなくてもせめて損をしない商いができたらの声が聞かれた。
- 今年は、比較的安い糸が手配済みでスタートした年であった。来年は非常に高い糸価からのスタートとなる。加えて消費税が4月1日から増税となる。非常に厳しい年を予測している。
- 状況は悪い。しかし、新しい生産基盤や若い労働力の確保など、丹後産地の再構築が始まっている。大きなテーマを持って、産地と組合、行政が一体となって「シルクの町丹後」からの情報発信も必要としている。

(調査時期：平成25年11月下旬～12月上旬)
(調査機関：(財)京都産業21北部支援センター)

【ちりめん(白生地)】

●平成25年1月～11月の生産量は、39.68万反で前年比96.5%（無地7.7万反・同103.8%、紋32.0万反・同94.9%）となり、今年の実産目標の43万反を達成する状況にある。

●財務省の貿易統計によると、平成25年10月現在の小幅白生地輸入量（無地及び紋）は、30.2万反で前年比96.0%と減少している。この内主たる輸入先である中国からは15.3万反で前年比72.3%と減少している。これに対してベトナムからは無地・紋ともに増加し、12.8万反で前年比127.1%で、生産拠点が中国からベトナムへ移行している。益後は輸入織物も高くなり丹後物と変わらない値段となっている。

●春先は、一時的には白生地問屋の買いの先行が見られ、白生地も上がりだした。しかし、川下に行く程冷静で小ロットの対応であった。9月後半から荷動きが悪くなり生地値が糸価についてこなくなった。

ドル決めによる生糸価格は為替のウエイトが高く、安い約定の糸も底をつき糸高製品安が進行して、機業の資金繰りはさらに厳しくなっている。

●生糸は中国に頼らざるを得ないが、東桑西移の国策によってA産地の良質の生糸の生産が減少している。最近では江西省の糸が入り出した。しかし、品質の追跡ができていない。製糸工程のコストを下げるために、乾繭にせず生織りで繰糸を行うなど、乾繭と生織りのロット管理の不備が指摘されている。また、節等の品質にも課題があり、中国主導の検査を疑問視する声が聞かれた。

●産地をリードする商品がない。振袖も不振であった。レンタルのウエイトが大きく、レンタル店や写真館に商品が行き渡ったようだ。海外の振袖も作りすぎの状態、着尺地の生産に切り替わっている。

また、羽二重や裏地だけの単品産地は苦戦している。川上と川下が連結して、多種多様なもの作りが必要であり、お互いのリスクを少なくして競合しない形で前に進むことが大切だ。今日までの機屋はまとまることができなかった。若い後継者のグループは積極的だ。作れなくなった物を機業が連携することで作れる。この繋がりが大切だ。

出機の減少の中で、織場はフル稼働に近い状態。しかし、織工賃に改善は見られない。

【帯地】

●平成25年1月～9月の西陣帯地推定出荷量は、46.8万本で前年比97.7%で主力である袋帯は93.5%、なごや帯84.7%と減少している。

●市況は悪いままの横ばいの状態。その中で胴の軽い安物を織っているところは比較的よく動いている。しかし、糸価の高騰で緯糸の材料の入りが悪い。金銀糸は1コーンから小枠に振り替えて管巻きで抱き合わせるなど、非常に手間が掛かる。一つの生産調整となっている。

工賃の改善を京都に求めても、糸価の高騰などから、ちょっと待って欲しい状況だ。

出機は高齢化と共に簡単な仕事がないか問い合わせがある。安い工賃しかもらえないので、簡単な物を織った方が楽だとの思いだ。しかし、若い機場はそこに引張られて苦労している。

売り出しがあっても新しい柄を作ることが少なくなった。そのため目新しさに欠ける。そこで、丹後のオリジナル帯地の価値が認められた。

●賃機屋は、止まることはないが帯1本単位で配色が変わったり、色糸の切り替えが多いなど稼働率が悪い。手間が掛かる割に越単価が安いなど不足感がある。

京都はそれなりに織工賃を出していても、代行店の裁量の範囲で支払われている。織工賃は透明性が要る。

代行手数料、織工賃それぞれに京都から支払われた方がよい。丹後も変わらなければとの声が聞かれた。

【広幅織物】

●シルクの高額品が東京で売れ出している。シルク100%、シルクウール複合などブラックフォーマルの後染めの産地が減少、残り福の感がある。しかし、糸価に対して売値が厳しい。

ポリちりの生産量は減少しているが、丹後が製品化する機能を持ち、プリントメーカーに丹後から発注して、アパレルに納品することで利益率が高まっている。

●ネクタイは、ロードサイトショップの売れ行きが好調。現在は来年の春物がフル稼働の状況である。消費税が高くなるまでに仕入れるため前倒しの生産が行われている。中国からのネクタイの輸入は、物価や労働賃金の上昇で高くなり、さらに円安で仕入れ価格が高くなっている。日本向けのロットは小さく、手間の掛かるものが多いため中国からの輸入量は減少傾向で、国産へ移行している。

糸価の高騰に伴い利益率が低くなっているが、全てを売り先に求めることはできない。そこで売値を変えずに利益を回復するため、素材の複合化による原料コストの見直しや織上がりシミュレーションの導入による試織経費の節減を行っている。

●カーシートは仕事はあるが織工賃が安い。そのため長時間稼働をしている。また整経賃や検査料、シワの発生を防止するためのロール巻き作業など多くの経費がかかる。儲かっているのは自動車メーカだけだ。全てピラミットの下にしが寄せが来る。

【小物】

●正絹の風呂敷は高額であり多くは売れていない。

ポリエステル風呂敷は、無地染・プリントなど年間を通してコンスタントに売れている。

レーヨンちりめんは縮むことからインテリアとして使用されている。綿の風呂敷がよく売れている。

●正絹の半襟は、機場の減少で需要と供給のバランスがとれてきた。

アセ・レーヨンの半襟はシーズンでもあり少しは動いているが、生産は年々減少している。下げ止まり感はある。先方も値段を考えてくれるようになった。

ポリエステル半襟は需要が決まっておりシーズンになれば動く。

●帯揚げは前が悪い。生産能力が落ちる中で、縫い取りなどの高級品に対応できる機場が減少して需要に対応できない状況にある。

●レーヨンちりめんは台紙等の接着性がよいことから、和雑貨等の資材関係に多く使用されている。加工場の入荷量も多いようだ。